



業務部速報

2026.02.09 No.35

発行: JR東労組東京地本 業務部



「上野統括センターにおける乗務ユニットの統合について」 提案を受ける(その②)

● 施策実施後の社員の働き方について

組 合	会 社
<ul style="list-style-type: none"> 田端が行っている入換や入出区については今後どうなるのか。 融合行路(田端駅での終電対応)は今後も続けるのか 	<ul style="list-style-type: none"> 現行通り行つてもらう。乗務員勤務制度に則った勤務または、駅業務と融合をして一部時間で入換業務を行う方法も考えられる。 引き続き行う。上野の乗務員も将来的には見習いを経たうえで担つてもらう予定だ。
現行でも田端の全乗務員が乗務業務、企画業務、融合行路(田端駅での終電対応)を行っている。加えて一部の社員は駅の作業ダイヤに入つて業務をしている。さらに業務を担わせるのか。	田端の乗務員が様々な業務を担つてることは承知している。引き続き融合と連携を担つてほしい。教育に時間がかかる認識はある。具体的な教育内容や期間については検討していく。
<ul style="list-style-type: none"> 最終的には田端の乗務員が交番に入るのか。 田端乗務ユニットで使われてきた「乗変」「乗務」といった勤務指定はどうなるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 最終的には田端の乗務員にも交番に入って今の上野の業務を担つてほしいと考えている。 今後はその他時間の付与した行路や必要に応じて変形に指定するなど、ほかの乗務員区と変わらない勤務指定を行う予定である。入換については臨時行路として設定するなどの対応を考えている。
<ul style="list-style-type: none"> 上野の乗務員に対しても現行の田端で行つている業務(企画、駅勤務など)を担わせるのか。 田端の乗務員がデスクワークとして行つている業務(サービスや計画など)はどうなるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅との融合や兼務は田端に限つた話ではない。上野の乗務員にも担つてもらう。 田端が行つてゐるサービスや計画などの業務については、上野でも委員会という形でやるものもある。乗務行路作成は上野の内勤との分担で作業してもらうこともある。
<ul style="list-style-type: none"> 田端の乗務員は見た目以上に多くの業務を抱えており、超勤が張つてゐる社員もいる。さらに定期行路の乗務が加わると、社員間で業務量に大きな差が出ることが懸念される。 田端運転所時代からこの間の施策で、融合と連携を最先頭で担つてきたのが田端の乗務員だ。田端の乗務員がどれほどの業務を担つてゐるのか正確に把握しているのか？ 田端の乗務ユニットの社員の働きをどう評価しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務量の偏りについての懸念はその通りだ。管理者がしっかり管理していく。 (廃止まで)機関車を担い、今は工臨の運転、入換、尾久駅での信号、改札、日暮里、田端駅での改札業務、さらにはイベント開催などの企画業務を担つてゐる。田端駅 15 名程度、尾久駅 3 名程度、日暮里駅見習い中を含めて 3, 4 名程度が駅での業務に従事している。 融合と連携を先頭で担い施策を推進していただいた。引き続き施策の推進を担つてほしい。

その③へ続く